

科目名	労働経済学 A				
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照		
開講期	春学期	開講学部等	経済学部	配当年次	2 年次
教員名	東 雄大			単位数	2 単位

授業概要／Course outline

労働経済学は、「働くこと」を取引する「労働市場」の機能を分析する応用経済学の一分野です。人々は何時間働くのか、企業は何人雇い入れるのか、賃金はどのように決まるのかといった私たちの生活にも関係する問題を分析します。また、労働政策や社会保障政策の効果を検証することも重要な課題です。この授業では、各テーマの理論を解説するとともに、その理論が本当に現実の世界を描写できるのか、政策はどのような効果を持つのかをデータを使って検証する実証分析についても解説します。

春学期は、労働者の効用最大化、企業の利潤最大化、労働市場における賃金決定といった基礎的な内容を扱います。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

・ICTを活用した授業（形態：クリッカー、タブレット端末、スマートフォン等を活用した双方向型授業／遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

クイズやアンケートによる双方向型授業を行います（Formsを利用予定）。

オンデマンド授業のリンクはmoodleに掲出します。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 労働経済学とは何か：研究対象と分析方法

労働経済学の研究対象と分析方法について説明する。

第2回 労働供給1：効用関数と予算制約

労働者の効用関数と予算制約について説明する。

第3回 労働供給2：効用最大化

効用最大化による労働供給の決定について説明する。

第4回 労働供給3：労働供給の比較静学

賃金等の変化が労働供給に与える影響について説明する。

第5回 労働供給4：就業選択、労働供給曲線

労働者の就業選択、及び労働供給曲線の導出について説明する。

第6回 実証分析の方法

データを用いて因果関係を識別するための基礎的な考え方を説明する。

第7回 労働供給5：福祉政策が労働供給に与える影響

生活保護制度等の福祉政策が労働供給に与える影響について説明する。

第8回 労働需要1：短期の利潤最大化

短期の利潤最大化による労働需要の決定について説明する。

第9回 労働需要2：長期の利潤最大化

長期の利潤最大化による労働需要の決定について説明する。

第10回 労働需要3：長期の労働需要の比較静学

長期における賃金等の変化が労働需要に与える影響について説明する。

第11回 労働市場の均衡1：完全競争の労働市場、社会保険料の帰着問題

完全競争の労働市場における賃金決定メカニズムと社会保険料の帰着問題について説明する。

第12回 労働市場の均衡2：買い手独占の労働市場

買い手独占の労働市場における賃金決定メカニズムについて説明する

第13回 労働市場の均衡3：最低賃金制度

最低賃金の引き上げが雇用に与える影響について説明する。

第14回 まとめ

これまでの内容について復習する。

★オンデマンド 課題の解説

第5回及び第10回の授業終了後に出题される課題の解説動画（各45分程度）を各課題の提出期限後に配信する。

事前・事後学修／Preparation and assignments

[事前学修] moodleで配布する講義資料を読み、疑問点を整理する。

[事後学修] 講義資料の空欄を自分で埋めるとともに、確認問題を解いて復習する。

※各授業に対する事前・事後学修は合わせて約180分を目安とし、合計で2,700分程度とする。

授業の到達目標/Expected outcome

- ・現実の労働市場における現象や政策に関心を持ち、そのメカニズムを「経済学的知識・教養」に基づき考えることができること。
- ・データを用いて理論や政策効果を検証する方法を「経済学的思考方法」に基づき考えることができること。
- ・現実の労働市場において解決すべき問題を「論理的かつ多様な視点から」考えることができること。

身につく資質・能力/Competencies to be attained

- | | |
|--------|-------------|
| ・思考力 | 専門知識・専門技能 |
| ・幅広い教養 | 【経済学部 経済学科】 |
| ・主体性 | ・応用理論 |
| | ・政策分析能力 |

履修上の注意/Special notes, cautions

- ・Moodleを通じて配布する講義資料をもとに授業を行うので、事前に入手してください。
- ・「経済学入門Ⅰ」と「経済学入門Ⅱ」を十分に復習してから受講してください。

評価方法/Evaluation

課題：10%×2回（提出期限後にオンデマンド授業で解説します）
定期試験：80%

教材/Text and materials

参考書：

阿部正浩（2021）『基本講義 労働経済学』新世社

川口大司（2017）『労働経済学：理論と実証をつなぐ』有斐閣

中室牧子・津川友介（2017）『「原因と結果」の経済学：データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社

宮本弘暁（2018）『労働経済学』新世社

Borjas, George J. 2023. Labor Economics, 9th Edition. New York: McGraw Hill

質問や相談の方法/Instructor contact

オフィスアワー、メールアドレスは授業で連絡します。

授業に関する質問や相談などがある場合は、オフィスアワーに研究室へ訪問するか、メールで質問してください。

オフィスアワーを利用する場合は事前にメールで予約してください。